

大谷教師塾 教員養成ナビゲータ

大谷大学
教職支援センター

第108号

2015. 7. 1

「アクティブ・ラーニングとこれからの教育」 大谷大学教職支援センター所長 教授 岩瀬 信明



「アクティブ・ラーニング」が話題になっています。次期学習指導要領改訂（平成30年版の学習指導要領になるのでしょうか）の諮問に際して示されたのが「アクティブ・ラーニング」です。

2014年11月、文部科学大臣が次期の学習指導要領改訂に向けて、中央教育審議会にその教育課程の基準の在り方を諮問しました。そこで「これからの時代を、自立した人間として多様な他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力をどのように捉えるか」と問題提起をしています。諮問文で「アクティブ・ラーニング」を「課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」と示しています。

PISA2012年調査では、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーともに順位が上がり、特に、読解力、科学的リテラシーはOECD加盟国中では1位となりました。「PISAショック」といわれた頃と比較して、日本の教育は何が変わったのでしょうか。どんな努力があったのでしょうか。教員を目指す者にとっては大変気になる点です。

OECDは21世紀に必要な能力（コンピテンシー）として、次の3つを掲げ、PISA調査においてその力がどれだけついたかを明らかにしようとしてきました。

1. 言語、知識・情報、技術を使って問題を解決する能力。2. さまざまな集団において人間関係をつくる能力。3. 自立して行動する能力。

学校教育で、これらの能力を育てることの必要性が論じられ、そのための教育活動が展開されてきました。子ども一人一人が「主体性」をもって筋道立てて考え、判断し、友達と話し合いながらよりよい答えをつくることを重視した指導が行われてきました。

今回出されている「アクティブ・ラーニング」では、今までに取り組みられてきた指導を一層進め、子どもがどう学ぶかを明確にした授業デザインが求められていると考えられます。

OECDのコンピテンシーは子どもの学びにとどまらず、教員を目指す者にとっても、自らの研究、学びに反映していくべきものではないでしょうか。まず、「主体的に」「自立」して行動し、考え方の違いを「協働」の中で生かし、よりよいものを「創造」することが大切です。

子どもの主体性や自立、協働を目指す教育を行う者が、自らの主体性、自立、協働が危ういようでは、とても教員には程遠いといわなければなりません。

新規採用教員の指導を担当する教員が、「あなたがしっかり指導しなければあなたに担任してもらっている子どもがかわいそうですよ。子どもがかわいい、子どものためと思ったらあなたがしっかり、堂々と指導することです。」と、話されているのを聞いたことがあります。

十分な教師力をつけるために自ら何を努力するべきか改めて問い直してみましよう。

「教職アドバイザー」が4人になりました。私たちは「『ゼヒトモ』教師に」と願う皆さんの採用試験や教師を目指すうえでの心構えをはじめ、皆さんの適性に応じてボランティア校や各府県市の「教師塾」の紹介・各教育委員会・現場の先生方や卒業した先輩たちと連携し、面接、筆記試験、模擬授業試験など具体的に実践的な支援をします。加えて、児童・生徒への「学ばせ方」や諸君自身の「学び」の相談もマンツーマンで懇切に対応します。

大谷大学教職支援センターの新しい教職アドバイザーの紹介



私も三人の子も大谷大学の卒業生です。長男は当センターのおかげで滋賀県の中学の教員をしています。学生の皆さんの夢が叶うよう応援します。アドバイザー相談コーナーで待っています。どうぞ気軽に来てください。

美濃部俊裕 在室：月・水・金曜日 12:00～17:00



京都市の中学校長時代も、常に「挨拶」「時間」「授業」の三つを大切に！という「『行動目標』を頑張ろう！」と言い続けてきました。中学生たちは見事にこれに答え、より良い学校にしてくれています。大谷大学も基本、こんなことを大切にしながら、教職のことについては「教職支援センター」へぜひ話をしに来てください！

須川和幸 在室：月・水・木曜日 12:00～17:00

教職をめざすみなさんへ

大谷大学 文学部文学科
教授 荒瀬克己



あたりまえのことですが、教員になるということはゴールではありません。教職をめざす人は、まずは採用試験に合格するということを目標にしましょう。しかし、合格したらそれでおしまいのはずはなく、教員になってからこそ、どんな教員であろうとするのかということが問われ続けます。逆に言えば、その「覚悟」が教職への道を拓くとも言えます。

2012年8月28日に中央教育審議会から出された「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」には、いわゆる「学び続ける教員像」が示されています。教員志望の学生諸君には、ぜひ読んでいただきたいと思います。ただ、その内容を理解すればそれでよいということではなく、当然のことながら、それらを日々具体的に実践していくことが必要です。これがまことに難儀です。

学校教育法第30条には、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」とあります。ここに示されている、基礎的・基本的な知識・技能、それらの活用能力、そして、学習意欲、この三つが、「学力の重要な三要素」と呼ばれるものです。これらを児童生徒が自ら伸ばすことができるように指導することが教員に求められています。そのためには、教員自身がこの「三要素」を身に付けなければなりません。

どのような仕事もそうでしょうが、「こうしたい」、「こうでありたい」という意志や意欲が大切です。その実現には、さまざまなことを着実に身に付けて、自分の「できること」を増やしたり、それらをさらに深めたりすることが必要になります。

ところが、自分自身の思いや得意とは別のことであっても、仕事を進める際に必要であり正当なことは、つまり「しなければならないこと」は、たとえしたくなくとも、たとえうまくできないことでも、しなければなりません。なんとかなることもあるでしょうが、うまくいかなかったり、失敗して周囲に迷惑をかけてしまったり、といったこともまた必ずあります。そんな場合でも、そこから逃げ出すことはできません。明日授業でどうするか。いま生徒にどう向き合うか。そのときの自分を想像して、「すべきこと」に、日々誠実に取り組んでください。

3年生の皆さんへ

今、4年生は教員採用選考試験（教採）の真最中です。北海道では、一次試験が終わりました。その波は、徐々に南下し、近畿は主に7月の第4土・日曜日に実施されます。積み上げてきた力を十分に発揮してくれることでしょう。

さて、3年生の皆さん。まだまだ他人事のように感じていませんか？思いはあるが、何から始めたらよいのか…と、思い悩んでいる人もいるかもしれません。いよいよ「あなた方の」教採は、1年後に迫ってきました。あわてず、目標を持って、計画的に、着実に行動し準備をしていくことが必要です。そこで、皆さんに強く参加を呼び掛けます。

- | | | |
|---|-----------------------------|-----------------|
| 1 | 面接セミナー（要申し込み） | |
| | 1回目 8月5日（水）4:20~5:20 | ・面接試験の目的と形式 |
| | 2回目 9月9日（水）10:00~12:00 | ・面接試験の実践（個別・集団） |
| 2 | 志願書記入説明会 地域別に4回実施（事前申し込みなし） | |
| | 滋賀県 9月7日（月）2:00~3:30 | ・志願書の持つ意味 |
| | 京都府 8日（火）2:00~3:30 | ・教育観を育てる大切さ |
| | 大阪・他 9日（水）2:00~3:30 | ・自己PRの作成 |
| | 京都市 10日（木）2:00~3:30 | |

『先生になるぞー』

ゼヒトモ教師 をめざせ！



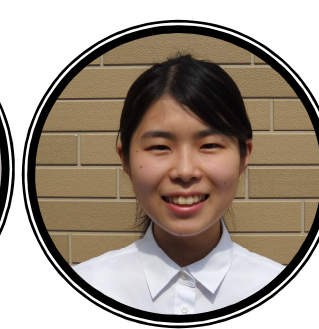
石黒 雅大



市原 萌



山田 紗希



栗山 栞



竹林 霞

教育実習を終えて 教育・心理学科4年生 石黒 雅大 【茨木市立太田小学校】

教育実習というと皆さんには様々なイメージがあると思います。ただ一つ私が確実に言えることは、実習後には「一回り成長した自分」がいるということです。実習期間中は楽しいことばかりでなく苦しい時もあります。それは授業であったり、児童対応であったり様々ですが、そんな時こそ逃げずに真正面からぶつかってみると、大学生活だけでは見えてこなかった「授業の意味」や「児童の心の動き」が見えてきます。これは現場だからこそ学べることだと私は思います。教育実習は単なる実習ではありません。皆さんの教師としての初めの一步を刻む瞬間です！

教育実習を終えて 教育・心理学科4年生 山田紗希 【長浜市立木之本小学校】

教育実習を通して、私が一番学んだことは発問の仕方です。初めて授業をしたときに、児童は全く話を聞いてくれませんでした。なぜ聞いてくれないのか、最初はわからず、「話を聞いて」と言うばかりでした。しかし、様々な先生の授業を参観して、引きつけ方が違うと感じました。その子どもに合った発問をし、その中で出てきた意見を他の児童につなげていくことが大切のだと分かりました。教師の発問は一対一で話すためにあるのではなく、支援の必要な子や上手く発表できない子に友達の意見を広げることが大事だと知りました。またクラスの仲間の意見をしっかりと聞くことや考えることを身につけるためにあるのだと思います。私も児童の思いを広げる発問ができる教師になりたいです。

教育実習を終えて 教育・心理学科4年生 市原 萌

【南丹市立鶴岡小学校】

私は四週間の教育実習で多くの授業をさせて頂くことができました。初めの頃は、毎日の授業の準備は大変でしたが、多くの先生方の助言を頂き、徐々に教材研究や指導案を作ることに慣れてきました。また、授業をする中で、児童から思うような意見が出ず、整理ができなくなって困ることも多くありました。そんな時「間違いこそ宝だと思って、それをみんなで考える材料にしたらいい。」と先生に教えて頂きました。私はその助言から、今度は、児童の多様な意見を整理・活用する力をつけていきたいと考えています。そして、毎時間焦らずに、児童が自分たちの考えを深められるような発問をし、児童主体の授業ができる教師を目指したいです。

学校ボランティアを経験して 教育・心理学科3年生 竹林 霞 【京都市立松ヶ崎小学校】

「子ども大好き。」「豊学校の先生になりたい。」そのような思いから教師を目指すようになりました。そして2年生になって、学生ボランティアを始めました。実際に小学校に入って最初に学んだことは、自覚・責任という言葉です。学校現場に入れば私は先生です。目の前には子どもがいます。「言葉づかいに気を付けよう。」「視野を広くもとう。」「自信をもとう。」と、まず自分自身を見直しました。また、一人一人の子どもの個性を認め、しっかり見てあげることの大切さ、難しさを実感しました。このことは今でも、どうすればいいのかわかりませんし課題でもあります。ボランティアは、教師を目指す思いをより強いものにしてきています。



教育実習を終えて 教育・心理学科4年生 栗山 栞 【京都市立西京極中学校 社会科】

「実習の最後に、『しんどくもあり、楽しい』と思えたら、良い経験となるはずだ！」と実習の初日に担当の先生から言っていただきました。最終日、この言葉にもう一度接した時、3週間を一気に思い出しました。初日まで、「どんな学校だろう、授業は上手くできるのだろうか？」等々、様々な不安と緊張で一杯だったこと、初めて自己紹介をしたときの生徒の顔や、先生方の授業を見て「すごい」と感じたこと、教材研究などの授業準備に睡眠時間を削っていた時などの思いがあふれてきました。実習校の先生方は、実習生に対して「さらに成長してほしい！」という思いを持って接して下さることを強く感じました。最後に、「生徒の笑顔」には大きな力があります。実習の際には自分から生徒にたくさん話をする時間を大切に下さい。

